

網張ビジターセンター ニューズレター



Vol.68
2016.9



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

やっと姿を見せてくれた「トウホク/ウサギ」

8月13日19時56分、センサーカメラにトウホクノウサギが写っていました。2台設置しているカメラには今年に限ってウサギの姿がこれまで皆無でした。別な場所に設置したカメラにはキツネの姿が頻りに写っていましたので、「ほとんどのウサギは捕食されてしまったのでは…」と不安がよぎりましたがそこは年3~5回の多産なウサギ、ようやくその姿を捉えることができました。ウサギは3年前から設置しているセンサーカメラの“常連さん”でもあり、いることがあたりまえになっていました。ですが彼らの外敵から身を守る方法はひたすら逃げるだけ…。厳しい環境の中で何とか生き残っているからこそ、その姿を目にすることができるのですね。常に命の危険と向き合っている暮らしの生きものの存在がより大きく感じられた一枚でした。

What is "Touhokunousagi"?

「毛がわりするウサギ」

ウサギ科
体長：45~55cm 前後
分布：本州（日本海側）

夜行性で子育ては「別居保育」と呼ばれ母親が子ウサギに授乳等で接する時間は非常に短い。子供達に自分の匂いなどが移り外敵に狙われることを防ぐためとも言われている。繁殖期にはオスがメスにおしっこをひっかけて気を引くこともある。

(参考図書：「ウサギの不思議な生活」)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



アミハリ・バーズ Vol. 11

クロジ

科名:ホオジロ科

全長:約 17cm

生態:留鳥または漂鳥※

分布:日本全国

※日本では、本州中部以北に留鳥として生息し繁殖するが、秋になると南方や標高の低い土地に移動する個体も多い。北海道や東日本では夏鳥、西日本には冬鳥として渡りをするケースも確認されている。



網張の森で見られる野鳥の中でも、クロジはなかなかミステリアスな鳥です。5月に「ホイーチィチィ…」というさえずりが聞こえるのでおそらく繁殖も行っているはずですが、灰色のシックな色合いの姿を見つけるのは容易ではありません。人が近づくとびっくりして藪の中へ逃げ込む事も多く、忍者のように忍ぶ鳥です。ちなみに巢も藪の中に作ります。

クロジは漢字だと“黒鷗”と書きます。鷗は訓読みで「しとど」と読み、アオジやノジコなどホオジロの仲間を差す呼び方として使われたそうです。

冬が来る前に、網張のクロジもどこかへ旅立っていくのかもしれませんが。あるいは、留まって雪の上に落ちたダケカンバの種子などをついばんでいるのかもしれませんが。クロジは謎が多く想像力がかき立てられる鳥です。

関西の学生たちが網張で“国立公園の自然”に触れた夏

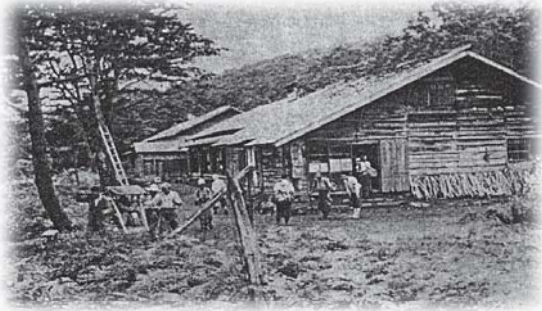
関西学院大学総合政策学部の佐山ゼミでは、学生たちを日本全国の“現場”に放り出して実践的に環境や自然を学ばせます。そんなことで今年も渡谷健太（ワタチャン）、谷上大輔（ダイチャン）、中島麻衣（マイマイ）の三人が網張へやってきました。

- 1日目 移動日** 「朝4時に出発し、神戸から飛行機、電車、バスを利用し昼の3時に到着するという長旅でした。正直とても疲れました。」
- 2日目 森のスケッチ実習** 「普段自分たちは周りを適当に見流しているだけなのだと感じました。木を見れば 木だ！ 草を見れば 草だ！ の感情しか抱かないのですがよく見ると同じ木の葉でも少しずつ色が違ったりしていることを再確認しました。」
- 3日目 ネイチャーゲーム体験** 「森の中に行かないとできないと思っていましたが雨でも自然に触れられるのがいいなと思いました。」
- 4日目 犬倉山登山道調査** 「登山が始まって最初の20分は本当に死ぬと思いました。でもそれが過ぎると不思議としんどさは感じなくなりました。今日は筋肉痛にならないようにストレッチをしてから寝ようと思います。」
- 5日目 特定外来生物オオハングソウ駆除作業参加** 「オオハングソウ抜きはたくさんの方が参加されていましたが、殆どがおいしさんでした。これから10年経った時ボランティアで請け負ってくれる人がいるのか心配になりました。」
- 6日目 自然ふれあい行事 炭火でお米を炊いてみよう** 「炭火でお米を炊くというのは初体験でしたし、薪割りを見るのも初めてだったのでとても興味深かったです。」
- 7日目 最終日の日誌より** 「一週間という短い間でしたが、本当にお世話になりました。ただ机に向かうことだけが勉強ではなく網張での実習のように実体験を通して楽しんで勉強することも大切なんだと気がきました。」



前列が（マイマイ、ワタチャン、ダイチャン）
後列は不動の網張ビジターセンタースタッフ

本当はこの2倍くらいのプログラムを体験してもらったのですが若い彼らはなんなくこなして、名残惜しそうに帰って行きました。国立公園に関心を持つ若者がまた増えましたよ！



「バカヤロウ事件」の翌日、網張温泉を下る審議会の一行。先頭のカゴに乗る田村委員、かついでいるのは当時の西山村の栗木村長。

*「バカヤロウ事件」…足の不自由な田村委員はカゴで山岩峠を越えて岩手県に入った。そこから県のジープで網張を目指したが悪路で立ち往生、同行者が運転手を「バカヤロウ」と怒鳴りつけると、そこでカゴを担ぐために集まっていた地元の青年たちが憤慨して全員下山。誰もいないので、村長自らカゴを担いだ。後日、この経緯を新聞が詳しく報じて審議会の先生方の不興を買った事件。

国立公園審議委員が“カゴに乗って”現地視察！

長かった戦争が終わり、荒廃の中から明るい希望を託して全国41地域から、国立公園候補地の陳情、要請が厚生省に寄せられました。

岩手県も昭和22年に入り、当時盛岡中学の生物教師だった瀬川経郎氏を県土木部観光係に迎え、八幡平の地質、地形、植生の調査取りまとめに着手、農民知事として親しまれた国分謙吉氏や洋画家で県会議員の橋本八百二氏、網張温泉所有者の村上三郎氏、マタギ出身の西山村長・栗木長太郎氏たちが積極的に国立公園化を訴えました。

戦前から男鹿・田沢湖・八幡平の国立公園化をもくろんでいた秋田県と足並みを揃え、両県知事の連名で正式に八幡平の国立公園指定申請を行ったのが昭和23年6月のことです。同じ年の8月には日本の国立公園生みの親と言われた田村剛氏を団長とする国立公園審議会の先生方による現地調査が実現しますが、その最中に起きたのが後で新聞沙汰となる通称「バカヤロウ事件」です。これで八幡平の国立公園化の将来に暗雲が漂うことになります。

指定60周年記念企画展「国立公園への歩み、八幡平」盛況のうち無事終了しました！

企画展を手掛けたビジターセンタースタッフの声・・・「本格的な準備を始めたのが展示1ヶ月前。当時のことを知る方もほとんど残っておらず、資料集めも手さぐり状態で展示が完成するか不安だった」「それでもビジターセンターに繋がる多くの方々が貴重な写真や調査記録を提供してくれたことに感謝」「物も金もない時代、なんとしても国立公園にという地元の人の熱い思いを、今の私たちは忘れてしまっているのではないだろうか」「嬉しかったのは国立公園化の運動の先頭に立って働いた方の御家族や登山道整備に関わった山岳会の人たちが見に来てくれたこと」など一番勉強になったのは私たちスタッフでした。



記念企画展に来て下さった方々（長澤嶺生さん、瀬川幸子さんと御友人、武内功さん）

環境省盛岡自然保護官事務所 アクティブレンジャー 紀恵の公園駆け歩記



岩手山頂にて 素敵な騎士たちに囲まれて

みなさんこんにちは。盛岡自然保護官事務所の工藤紀恵です。今年は夏バテもせず元気に過ごしました。夏が終わると食欲の秋、芸術の秋がやってきますね。私は前者が大の得意です。熱烈歓迎！食欲の秋！ヒュー！ドンドン！

今更ですが、みなさんはアクティブレンジャーをご存じでしょうか。盛岡自然保護官事務所にはこの4月から配置された職で、事務所で書類仕事に追われる自然保護官（レンジャー）の現場での仕事を補佐しているのがアクティブレンジャーです。ARと略されることもあります。改めましてよろしくお願いいたします。

ARは国立公園が主な活動の場ですが、同じく国立公園を舞台として活躍するパークボランティアの方々も忘れることはできません。自然解説、利用者指導、美化活動やビジターセンターが企画する活動へのサポート等を、自然保護官事務所と協力して行っている皆様です。わたくしの業務の1つ、登山道踏査へのご協力もいただき、いつもお姫様登山をさせていただいています。お姫様登山？勝手に名付けました。登山道踏査は概ね男性のパークボランティア数名と行いますので、わたくしは紅一点。素敵な騎士に囲まれての登山、お姫様登山と名付けたのです。（ずいぶん汗臭えお姫様もいもんだ）

騎士達は登山道に危険な箇所がないか、倒木など歩きづらい場所がないかと確認しながら山に入ります。お姫様はゼエハア・ゼエハア。騎士達は登山者に声を掛けながら山を歩きます。お姫様はゼエハア・ゼエハア。水を飲み飲み踏査を行っています。

自分がお姫様だなどと妄想してられないほど厳しい業務もありますが、国立公園を訪れる方々が快適に過ごせるように、しっかりと業務にあたりたいと思います。紅葉の国立公園でお会いしましょう！

十和田八幡平国立公園八幡平地域指定 60 周年記念行事

8月11日

山の日制定記念 トークイベント
「岩手山に魅せられて」

◆参加者 80 名 今年から制定された「山の日」を記念して阿部不顕さん、中山大太郎さん、阿部陽子さんを講師にお迎えし岩手山とどのように関わってきたかなどをそれぞれの視点からお話していただきました。長きにわたり深く岩手山と向き合ってきたお話からは、岩手山へ敬意と愛情が溢れていました。参加者からの質疑応答では熱心な質問が数多く寄せられました。



撮影：岩手県自然保護課



※7月30日の岩手山まるごと体験ネットワーク「網張の森ナイトハイクと星空観察」は雨天のため中止。

8月27日

「自然公園ハイキング in しずくいし (ミツ石山)」



◆参加者 38 名 前日の大雨の影響で当日まで開催が危ぶまれましたが、幸い雨にはほとんどあたらす無事に開催。岩手県自然公園保護管理員の皆さんが各班のリーダーとなり、リフトを利用した大松倉山を経由するコースを進みました。65 年前に地元の青年たちが 2 ヶ月余りかけて伐開した登山道とその当時に思いを馳せながら歩きました。山頂では記念写真を撮り帰りは奥産道コースを下山しました。

8月6日

網張の森・夜のいきもの観察会

◆参加者 15 名 NPO 法人コウモリの保護を考える会の作山さんよりコウモリの生態についてレクチャーいただき、コウモリの糞も顕微鏡で観察しました。岩手虫の会の三井さんから撮りためたバリエーションの豊富なガの写真をながら特徴などを解説していただきました。残念ながらコウモリは捕獲できませんでしたが、ライトトラップに集まったたくさんの昆虫を観察しました。



8月20日

「不便を楽しむー炭火でお米を炊いてみよう」

◆参加者 15 名 かつて網張の森の木は家庭の燃料として薪や炭など生まれ変わりを利用されていました。炭焼き人の坂内信彦さんに木が炭になるまでを教えていただき、実際に炭を使って土鍋でのお米炊きに挑戦！ダケカンバやスギの葉を着火剤にマッチで点火するも炭に火を点くまで大変でしたが、その後は順調に進みふくらと美味しく炊けたご飯を堪能しました。



9月11日

宮澤賢治生誕120周年記念イベント
「滝沢に残された賢治の足跡をたどる」

◆参加者 18 名 若き賢治が地質調査で歩いた大沢坂峠、ススキの穂が揺れる山道を歩きながら彼の残した詩歌を味わい、うっそうとした黒坂森の岩の前では「狼森と箕森、盗森」の童話の世界に浸りました。



作品に登場したのと同じ種類の岩石標本も登場。地元以外に遠く青森県や山形県から参加した人もいて、講師の「賢治とベゴ石の会」野中正昭さんの丁寧な解説に熱心に耳を傾けていました。

◆現在開催中の網張ビジターセンター企画展◆ 9. 1 - 10. 31

東北

アクティブ・レンジャー
アクティヴ・レンジャー
写真展



東北六県には、自然を守り、皆さんに楽しんでもらえる仕事をしている 12 名のアクティブレンジャー（アクティヴレンジャー）と呼ばれる環境省のスタッフがいます。彼ら（彼女ら）が日常業務のかたわら、それぞれのフィールドで撮影したベストショットをお見せします。



三陸復興国立公園「タブノキの天の河」



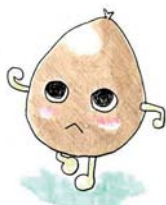
十和田八幡平国立公園「スポットライト」

モモンガのつぶやき

暑かった季節も一段落し、見上げる雲も秋の気配を漂わせるようになりました。涼しくなって活動的になるのは、人間だけではないはず。

渡り鳥はそろそろ旅路へ着くころでしょうか。

リスやネズミ等は食料の備蓄を計画中かもしれません。トンボのように子孫を残して風に散っていく種もいます。白い世界に変わる前の多彩さが、心に秋を刻みます。(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆7月 2, 512人 ◆8月 2, 857人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆7月 14.4℃ ◆8月 18℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月～10月) 休館日なし
9時～17時